



東京多摩プロバスニュース

第 52 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2014. 1. 8.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

コミュニティープロバス・・・わが街・多摩を次世代へ

第 113 回 定例会

日 時 : 平成 25 年 11 月 6 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 3 学習室

出席者 : 33 名(会員数 35 名)

第 114 回 定例会

日 時 : 平成 25 年 12 月 4 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 3 学習室

出席者 : 33 名(会員数 36 名)

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

「年頭に当たって」

副会長 山田正司

明けましておめでとうございます。

今年の干支は午で、皆さんからいただく年賀状にも午の字や、馬の跳ねる元気な絵が目立ちます。午は干支の第 7、方角では南、時刻では真昼前後ですから大変明るいイメージで、今年がそんな明るい幸せな一年であってほしいと皆さんと共に願うばかりです。

また午月といえば陰暦の 5 月で、わが多摩プロバスクラブの 10 周年記念式典が予定されている月でもあり、改めて身の引き締まる年頭であります。

10 周年事業はすでに始まっており、一回目の記念講演会を昨年末に盛況裏に終え、二回目は只今準備中です。もう 1 つのご当地カルタづくりは、現在絵づくりの真っ最中です。読み句づくりでは当クラブ全員の総力が発揮されました。「多摩かるた」づくりに関して、改めてこの多摩地域の溢れる魅力を実感しております。豊かな自然、美しい街の姿、人々のくらしや文化も長い歴史の中で育まれたものだと思っています。

一例を挙げれば、江戸の後期、関戸村の名主であった相沢家の五

流、伴主親子は著名な絵師でもあり、伴主が残した「調布玉川惣画図」には、関戸村と乞田川上流の山並みの上に美しい富士山が画かれています。惣画図は延々と多摩川沿いをパノラマ状に横に長く俯瞰していて、富士山はどこからでも眺められるのに、唯一関戸村の上方に画いた絵師の郷土愛がうかがえて、微笑ましく、かつ誇らしく思いました。

私達のご当地カルタづくりも、この郷土を誇り高く思い、守り育て続ける一助になればとの願いからであります。

「調布玉川惣画図」(全長 13m の内の中心部分 :
川向うに「関戸」や「一ノ宮」という表示が読み取れる)



1. 幹事報告

北村克彦幹事

1.1. 第9回多摩市中学生俳句大会への協力

当クラブの俳句サークル「笈句会」が中心となって、応募作品の選考に携わった。3回の第一次選考を経て、市長をはじめ、関係者による最終選考が行われた。当クラブ賞として5句を選出した。12月14日に表彰式が行われ、当クラブから増山会長と北村幹事が出席した。

関連記事 P6 参照

1.2. プロバスクラブ関東ブロック交流会

平成26年2月3日に八王子プロバスクラブで開催が予定されており、当クラブに対して多数の参加の要請もあり、12月4日現在21名の参加を予定している。

1.3. 会員の退会

12月末をもって、池田寛会員が退会されることになった。これからは会友としてお付き合いをさせていただきます。

2. 委員会報告**2.1. 総務委員会**

神谷真一委員長

1) 11月度定例会(11月6日)

お客様：澤雄二様(入会者)、山田喜一様(会友)

卓話：山田喜一会友による「介護予防でいつまでも自分らしい生活を」

関連記事 P4 参照

2) 12月度定例会(12月4日)

卓話：澤雄二会員による「目からウロコ、消費税の急所」

関連記事 P4 参照

3) 次回平成26年1月度定例会(1月8日)

卓話：稲田興会員による中国文化について第1話；「客家とは？」について

2.2. 研修・親睦委員会

上田清委員長

1) 11月13日(水)秋のウォーキング

御岳山、玉堂美術館、御岳溪谷、澤乃井酒造をめぐり紅葉の奥多摩を楽しんだ。参加者9人。

関連記事 P5 参照

2) 12月4日(水)恒例の忘年会を京王クラブで44名の参加を得て盛会裏に開催。

関連記事右段参照

2.3. 地域奉仕委員会

大澤亘委員長

1) 創立10周年記念事業の第1弾として東京大学名誉教授瀬川爾朗先生(現日野プロバスクラブ副会長)による講演会を11月10日(日)、関戸公民館大会議室において同公民館との共催による市民企画講座として開催した。一般市民のほか八王子と日野の各プロバスクラブ、多摩ロータリークラブの会員が多数参加され、会場は満席の盛況であった。

関連記事 P3 参照

2) 第9回の日本の伝統文化サロンが11月30日(土)行わ

れた。平成24年2月に始まったこのサロンも今回が最終回で吉岡喜久恵会員による貝合わせの解説とその指導による実演が行われた。

関連記事 P7 参照

3) 12月1日(日)、多摩市で開催された第5回ユネスコスクール全国大会に先立ち前日の11月30日(土)に、その関連行事として市内10の小・中学校の代表による円卓会議とESDをサポートする地域の産学官の支援の実情の報告があり、古澤靖雄会員と大澤が出席した。

4) 創立10周年記念事業第2回「最近の異常気象に関する講演会」2月9日(日)14時開催(関戸公民館と共催)

元NHKテレビの天気予報でお馴染みの村山貢司気象予報士(多摩市在住)による最近の異常気象に関する講演会を多摩市関戸公民館大会議室で開催。

2.4. 広報委員会

平田哲郎委員長

1) 東京多摩プロバスニュース第52号の編集方針について説明。執筆の協力をお願いする。

2) 創立10周年記念特集号(平成26年7月定例会に配布予定)の編集骨子について報告。

3) 多摩ボランティア・市民活動支援センター(ヴィータ7F)の団体登録を12月9日にすませた。

3. 忘年会

上田清研修・親睦委員長

去る12月4日(水)恒例の忘年会が京王クラブで開催され、来賓として東京多摩ロータリークラブをはじめ、全日本プロバスクラブ協議会や八王子・日野・横浜の各プロバスクラブから15名、当クラブから29名、計44名のプロピアンが集う盛大なものとなりました。

各クラブからの参加によって相互交流が深まり、会員間で親しく歓談し意見交換がなされる良い機会になったものと思います。また本年度からスタートした会友制度によるOBの参加もあって大変盛り多い忘年会でした。

これを機会に各クラブ間で様々な連携事業が企画され、より一層大きな力となって地域社会に貢献できるよう頑張らしましょう。



第10期忘年会を盛大に迎えて

当クラブ創立 10 周年事業の一つとして、多摩市関戸公民館と共催の市民企画講座「首都直下型地震とそれを取り巻く環太平洋地殻変動」と題して、東京大学名誉教授・理学博士瀬川爾朗氏（東京日野プロバスクラブ副会長）の講演会を 11 月 10（日）、関戸公民館にて開催いたしました。その要旨をまとめましたので掲載させていただきます。

文責 大澤巨地域奉仕委員長

「首都直下型地震とそれを取り巻く環太平洋地殻変動」 東京大学名誉教授 瀬川爾朗氏

1. 私は岩手県釜石市の出身であり、かつ、地球物理学、海洋物理学を専攻した者として、岩手、宮城、福島の 3 県 10 数市町村が被害を蒙った 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の被害については半ば当事者として数々の反省点がある。



講演の瀬川爾朗氏

最近では M(マグニチュード)=9.5 というチリ地震(1960 年)をはじめ、アラスカ(1964 年)、スマトラ(2004 年)など環太平洋の各地で巨大地震が起っており、今回の地震は決して格別のものではなく、その規模としては超 1 級であった。しかし、西太平洋ではこれまでそのような記録がなく、これまでに三陸を襲った地震はいずれも M=7.4~8.5 クラスであり、日本の地震学者は誰もこの地域にそのような巨大地震が起こるとは考えていなかった。

歴史上今回の地震に匹敵する地震は千百年余り前の 869 年の貞観地震まで遡ることになり、地震学も地質学と同様に千年単位で考えなければならなくなった。明治・大正・昭和の地震津波を知って分かったと思っていたことがいかに浅はかであったかを思い知らされた。

2. 地震予知は、いつ、どこで、どれだけの規模の地震が起こるかを予測することである。地震予知には長期予知と短期予知があり、長期予知はすでに解決済みと言ってよい。例えば「今後 50 年間に、東海地方で、M8 以上の地震が起こる」ことは 90%以上確かである。しかしこの予知は時間と場所があまりにも漠然としていて人間にとって意味がない。

この地震の発生原因に関連して「アスペリティ(asperity)」ということが言われている。アスペリティとは物の表面のザラツキ具合のことをいう。固着域とも訳されている。地球は 10 数枚の厚くて固いプレートに覆われておりそのプレートが地球表面に沿って移動していると考えられており(プレートテクトニクス)、その移動によって海側のプレートが陸側のプレートの下に沈み込むとき、陸側のプレートが引きずりこまれて歪みがたまり、限界を超えると固着がはずれ急激に跳ね返って地震を起こすという考え方である。

巨大地震は隣り合った複数のアスペリティが連動してずれ動くことによって生ずると考える。最近はこの

アスペリティを観察することによって地震予知に結び付けることができないかとして研究が進められている。

3. 自分や家族の身や住まいは自分で守らなければならないので、次のことに注意が必要である。

- ①建物は共振することが最も恐ろしいので、軟弱地盤では木造住宅はできるだけ堅固にして共振周波数を高くし、固い地盤では住宅は共振周波数を少し低くするように心掛ける。
- ②地震が来た瞬間はとにかく、潰されないこと、焼かれないこと、水に襲われないことを第一に考える。
- ③海が近いときは、津波の到着時間が 15~30 分あるから(三陸型の場合)その間に何とか逃げる。東海/日本海型の場合はその時間がないので、避難ビルその他少しでも高い堅固な建物に逃げ込む。
- ④今後は東海、東南海、南海地震とそれらの連動が重要であるが、これらの地域では地震津波の被害が地震と同倍に危険であると考えなければならない。

4. 立川断層帯は埼玉県入間郡名栗村から東京都青梅市・立川市を経て府中市に至る断層帯で、名栗断層と立川断層によって構成されている。全体で長さは約 33km でおおむね北西—南東方向に伸びている。

この断層帯の最新活動時期は約 2 万年前以後約 1 万 3 千年以前で、平均活動間隔は 1 万~1 万 5 千年程度であった可能性がある。この断層帯では将来 M=7.4 の地震が発生すると推定され、その際に北東側が相対的に 2~3m 程度高まるたわみや段差が生ずる可能性がある。

この断層帯では過去の活動を直接示す資料がほとんど得られておらず、最新活動時期や平均活動間隔の数値も信頼度が低い。このため過去の活動履歴についてのより精度の高い資料を得る必要がある。



熱心に聴き入る満席の会場

介護予防でいつまでも自分らしい生活を

山田喜一会友

明治時代のように平均寿命が 40 歳の時代では、結核や赤痢など感染症の予防が重要でした。その後、衛生状態が改善し、ワクチンが開発されることなどにより、昭和の中頃に平均 60 歳時代を迎えることができました。この時、新たな課題となったのが、脳卒中、糖尿病や心臓病などの生活習慣病でした。これも、国を挙げての予防対策のおかげで、今人類史上はじめてと言っていい、平均寿命が 80 歳の人生 80 年時代を迎えることができました。



これからは、長寿に元気を加えていつまでも自分らしく暮らすことが望まれています。そのためには、加齢とともに現れる病気と呼べない生活の不具合(老年症候群)を予防し、介護が必要になることを防ぐことです。これを、介護予防と言います。

平均寿命が 80 歳を超えている現在、長い人生を自分らしく過ごすためには、心と体の健康寿命を伸ばすことが

大事です。その為には、高齢者は常日頃から自らの心と体の機能の維持と向上を図る介護予防を行うことが、超高齢社会の中では重要なことです。

介護予防を必要とする背景には、あまり外へ出歩かなくなったり、他人や社会と接する機会が少なくなったりすると、活動量が減ったりして、心や体の機能低下を招きます。心身が正常であるにも拘わらず、閉じこもりがちな生活を長く続けることによって能力が低下する現象(廃用症候群)に陥ります。介護予防として大事なことは、それぞれの人が持っている能力をできるだけ使うことです。しかし、分かっているにもかかわらず腰が上がらないのが現実です。

いつまでも自分らしい生活をするために、自らが日頃から積極的に外出し、地域の活動に参加したり、地域の人と交流したりして、生き甲斐や、やり甲斐を見つけ自己実現を果すことで、生涯を通しての介護予防を続けることが大事なことです。言い換えれば、いつまでも自分らしく生きること、それを実現する手だてが介護予防だと言うことです。

目からウロコ、消費税の急所

澤雄二会員

4 月から消費税は 8% に増税される。これで私達の社会保障は守られるのか、生活を維持できるのか、私は極めて危ないと考えている。様々な視点から検証したい。

先ず指摘したいのは、消費税導入後の税収の推移である。平成元年に消費税 3% が導入された。しかし、消費税が引き金となって、翌年 3 月バブルが崩壊する。法人税、所得税が大幅減収となり、6 兆円の増収の目論みに対して 5 年後の平成 5 年にはマイナス 5 千 5 百億円となる。財務省は、平成 9 年 5% に増税する。10 兆円の増収予定である。しかし、翌年はなんとマイナス 1 兆 8 千億円に落ち込む。減収はその後も拡大を続け、平成 15 年にはマイナス 6 兆 6 千億円となる。消費税不況である。引き上げの翌年 GDP デフレーターはマイナスに落ち込んだ。今日まで続いているデフレスパイラルの始まりである。消費税の導入も税率アップも増収どころか、景気を後退させ大幅な減収を招いたのである。

欧米では「日本は財政破綻ではなく政策破綻である」と指摘している。景気に最も効果があるのは内需喚起である。それには国民が消費する力を持つことである。

しかし、この 20 年間、国民の可処分所得は減少を続けている。それは医療・介護・年金の社会保障費が増え続けていること。またサラリーマン減税だった「定率減税」と年金生活者減税の「老年者控除」の廃止など、実質増



税が相次いだ。一方給与所得は減り続ける。「デフレ時に増税はあり得ない」は世界の常識。

リーマンショック時に米国は「日本の轍を踏むな」を合言葉に景気対策 70 兆円のうち 25 兆円を減税に振り分けた。「欧州の消費税は 20% で日本は 5%」は説明が

違う。社会保障費など義務的支出は日本も欧州も 40% で負担は同じだ。1 千兆円の債務も、日本は企業の内部留保含めて 1 千 5 百兆円の金融資産を所有している。対外純資産も 250 兆円あり、世界最大である。国債の所有者は 95% が日本国民であり、償還は日本にされる。70% が海外所有のギリシャとは同じでない。

今の日本で必要な対策は、大幅な減税と大幅な財政出動を伴う成長戦略である。その予算はどうするのか、一つは徹底した行政改革。例えば、防衛省にコピー機のリース 1 年から 5 年契約に変更させた。それだけで年間 73 億円支出が減少した。特別会計の埋蔵金もまだ存在している。決定的なのは、国の会計制度の改革である。国の莫大な補助金は 8 月から 9 月に支給される。3 月までの半年間で遣いきれない。翌年の減額を恐れて年明けから無駄遣いを尽くす。資産と負債の項目を入れた公会計制度の導入は絶対条件である。財政再建は経済成長しかない。強力な政治の指導力を求める。

◇◇◇ 研修見学会 ◇◇◇

研修見学会に参加して

永島仁会員

10月23日、10時 JR 淵野辺駅に集合した19名の一行は徒歩で20分のところにある相模原市立博物館および宇宙科学研究所に向かった。

◇相模原市立博物館

早速学芸指導員佐藤氏の案内で博物館の見学が始まった。館内の展示品を全部説明していると45分では時間が足りないのではと前置きされて先ず宇宙科学研究所からの好意で特別展示していた小惑星「イトカワ」の模型や天体写真について説明を受けた。次いで一転して古代のマンモスの骨格の模型、相模原台地の形成、石器や土器の展示品へと説明が進み、古代ロマンに思いをはせた。

江戸時代の原清兵衛による新田開墾、江戸末期の横浜開港で絹の中継地として栄えた上溝地区、戦時中の軍都として、また戦後は米軍の施設として発展し、経済膨張期には東京から近いこともあって住宅地として発展、現在では神奈川県第2の政令指定都市として発展しているなど、古代から現在に至るまでの相模原の姿を垣間見ることができた。一行の中から再度訪れたいとの声が…。

◇宇宙科学研究所(JAXA)

相模原市立博物館を後にし、道路を挟んで2分程の斜め向かいにある宇宙科学研究所を訪れて構内食堂で昼食を済ませた後、ロビーで案内のスタッフを待った。

午後1時、ロビーでビデオを見て研究所の概要を知った後、小惑星探査機「はやぶさ」が小惑星「イトカワ」に打ち上げられた時の説明があった。はやぶさは小惑星探査を目的にした惑星探査機で、宇宙空間の飛行にはキセノンイオンエンジンの新技術でイトカワを目指した。

イトカワを狙ったのは日本のロケット開発の父「糸川英夫博士」の名にちなんだ小惑星で、これまで人類が持ち帰った天体は月以外にはなく、太陽系の研究にはどうしても必要であったとのことである。

はやぶさは制御不能に陥るなど様々なトラブルに見舞われたが、63万*。7年の歳月を費やし太陽系形成の謎に迫る研究に貴重な資料を持ち帰った。この技術を開発した研究者・技術者の努力を始め、大企業メーカーや中小

企業の職人の技術に負うことなど力説されて、大変な感銘を受けた。



JAXAにて打ち上げロケットの前で参加の皆さん

◇◇◇ ウォーキング ◇◇◇

紅葉の御岳山と御岳渓谷

増山敏夫会員

11月13日、西村政見会員をリーダーとする一行9名は、JR 青梅線、バスを乗り継いで、ケーブル滝本駅に到着。列に並ぶと、横で串焼団子売りが団扇で香ばしい匂いを煽り立てる(醤油をたらして焦がしているのだ)、まだ朝だというのに。ケーブルで御岳山駅に。快晴、眺望は抜群のはずだが視力が落ちた眼には霞むばかり。ここからは徒歩、結構きつい！山岳部仕込みの西村カラスが「カーア」と嘆く。紅葉はさっぱり…夏の異常な暑さ故か。途中の(御師料理を出す)御師集落は寂れており、特徴ある茅葺きの馬場家御師住宅も廃屋のよう。男坂を登り頂上の御嶽神社へ。一行高齢者ながら、講中名の碑版が立ち並ぶ急階段を物ともせず頗る達者。宝物殿前に北村西望の畠山重忠騎馬像がある。目深に被る兜が主人公のような異様な彫像

である。本殿で我々も多摩プロバス講中として10周年成功祈願のお賽銭。



玉堂美術館の石庭で参加の皆さん

高齢者は下りが危ない！ゆっくり慎重にケーブル駅へ。途中、道端に手袋片方が…誰かが「あった！」と叫ぶと、某氏が走って来る。頂上に忘れたと思って一度戻ったそう。一番可能性が低いはずの氏の忘れものだった。あるんですね、安心しました！これが高齢化…お互い気を付けましょう。下山後、御岳渓谷で昼食。対岸にこれからは見学する玉堂美術館の大銀杏が見事に黄葉しているではないか、はじめて黄葉に目を細めた。対岸一体は多摩の蔵元「澤乃井」の所有とか、玉堂が愛した山水景観が見事に維持されている。目玉は勿論美術館、「キレイ寂」を近代数寄屋として大成させた建築家・吉田五十八の設計である。石庭と一体の構成が素晴らしい。作為の感じられない石庭の向うに吉田が庭の眺めの一部と考えたであろう大銀杏が聳え、離れには画室が生前のまま再現されている。若き日のデッサン帳も興味深かった。この後、溪流沿いを一駅、ウォーキングを楽しんだ。ここも東京都、東京はまことに奥が深い。日中は暖かったが陽が落ちて冷えてきた。帰路桜ヶ丘組4名はいつもの「つぼ八」で体を温めて帰りました。

石庭に溢るる色や銀杏黄葉
霜の花往事を偲ぶ御師街

◇◇◇ 多摩地区 3 クラブ交流会 ◇◇◇

1. 交流ゴルフ大会

増山敏夫会員

10月23日、第2回交流ゴルフ大会が八王子プロバスクラブの主催で、相武カントリークラブで行われた。参加20名、うち多摩は北村克彦・関根正敏・鈴木達夫・増山敏夫各会員の4名。少し肌寒く小雨ぱらつく中、私は第一組でスタート。パートナーは後藤一郎(日野会長)、杉山友一(八王子元会長)、馬場征彦(八王子)の諸氏、両会長は別の会で何度かご一緒したことがあり、なかなかの腕。パー4の1番ホール、ドライバーはまずまずのショット、セカンドもまずまず、次は寄せ、ピタリとピンへ…のつもりが大シャンク！早々と出てしまった！ダブルボギー。それからは、何をやっても上手くいかない。池ポチャ、OB、トップにダフリ、バンカーではホームラン、あらゆるミスショットが…最後まで続く始末。しかし結果はともあれ、和気藹々の楽しいゴルフだった。後藤氏はほとんどミスショットがなく手堅くスコアをまとめ、杉山氏はミスショットが出るものの、随所にキレのあるショットを見せ、まずまずのスコア。一番若い馬場氏は時々ながらナイスドライブを見せ、スコアをまとめる。私だけが押して知るべし、散々のスコアだった。



当クラブの参加メンバー4名

結果は、パートナーの馬場氏が優勝、後藤氏が上位入賞、杉山氏が飛賞、私を除いて好成績を収めた。我が多摩はと言えば、北村氏が一人気を吐き、飛賞とニヤピン1個を獲得、他3人は残念ながら何もなし。

次回(第3回)交流ゴルフ大会は、わが多摩プロバスクラブが担当します。ダブルペリア方式ですので、成績は偶然に左右され気楽です。ぜひ多くの会員の参加(せめて8名位は)をお願いします。

2. 囲碁同好会の合宿に参加して 関根正敏会員

10月30日、八王子PC囲碁同好会のお誘いで、JR中央線の藤野駅から少し山あいに入った温泉宿「陣谷温泉」での一泊二日の囲碁合宿に参加しました。



碁宿合宿に参加の筆者(左)

八王子PCから7名、当クラブから堀内陽二会員と私の2名、計9名(日野PCの参加なし)が温泉宿での初日の昼食もほどほどに、すぐに対局開始。夕食までに4局、牡丹鍋の夕食後に3局、翌日の午前中に2局と、総当たり戦で一人8局を打たねばならず、宿の温泉に入る時間を逃しても、雪隠詰めのハプニングに遭っても、たとえ対局結果が悪くても、久しぶりに碁対局を満喫した2日間でした。

◇◇◇ 協賛活動 ◇◇◇

第9回多摩市中学生俳句大会に協賛して

北村克彦幹事

当クラブが協賛として関わった多摩市の中学生俳句大会は今年で第9回目を迎え、去る12月14日(土)に表彰式が関戸のヴィータホールで開催された。受賞者とその家族を迎えて、審査委員長賞はじめ、多摩市長賞、多摩市教育委員長賞、多摩市教育委員会賞2句、東京多摩ロータリークラブ会長賞、東京多摩ロータリークラブ賞16句に加え、東京多摩プロバスクラブ賞5句、および佳作69句、団体賞、奨励賞が授与された。表彰式の最後に、「からまつ」俳句会主宰の由利雪二審査委員長から、中学生の俳句の向上と、ここに至るまでの多摩ロータリークラブおよび学校関係者の努力に敬意が表された。

今年の応募数は、多摩市立中学9校と東京都立多摩桜ヶ丘学園から2,556句で、全生徒数の約78%が応募した。

10月に3回にわたって由利雪二先生のもと第一次選考を当クラブが担当し、最終選考に295句が残った。その後、11月7日(木)由利雪二審査委員長として各賞の最終

選考会が開催された。当クラブから増山敏夫会長、北村克彦幹事、萩句会から蓮池守一会友、登坂征一郎会員が参加した。その結果、上記の各賞が選出された。

入選作品は、1月23日～28日まで京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターAB館5階連絡ブリッジギャラリーに展示されます。

ラムネ瓶類に押し当て夏よ恋 落合中学校 梅村琴音	夏の空指でつないで描く星 多摩永山中学校 岡本真奈	菜園の母の麦わらよく動く 鶴牧中学校 橋本龍一郎	夏の空流れる雲に命あり 諏訪中学校 斎藤弘樹	夕立がくもの葉洗って光っている 多摩中学校 植松源太	東京多摩プロバスクラブ賞に選ばれた句
-----------------------------	------------------------------	-----------------------------	---------------------------	-------------------------------	--------------------

「伝統文化サロン」を終えて**滝川道子会員**

多摩市連行寺の志学サロンにおいて、足掛け2年間隔月で開催して来た「伝統文化サロン」を今回で終了致しました。このサロンは近くの友人が「着物を着たいけど筆笥の肥やし」という立ち話から始めたサロンで、少々お節介心から「私で良ければ先生になりますよ」がきっかけでした。

第1回“着物は下着が大事、胴作りからです”

足袋から紐に至るまでこまごまとした小物、「こんなに用意するんですか？」と先ず驚かれました。

第2回“着物の着方”

よいしょと着ないで品良く羽織る。娘時代のお振袖を持って来られて「成人式で着た着物」とはしゃいでおりました。

第3回“帯の付け方”

難しい、難しいと言いながら、お互いに帯を付け合っていました。他装・自装とありますが、楽しい半日。

第4～6回“暮らしの中の礼儀作法”

立礼坐礼、美しい立ち姿、正座の基本等立っていても座っていても背筋が真直ぐ伸びていること。きれいなお辞儀で印象深く。笑顔の演出、良く鏡を見ましょう！表情豊かに何時も目に笑みがあるように。日常の食卓から気を付けましょう。箸の持ち方取り方、嫌われる箸の使い方。訪問のおもてなし、恥をかかないために知っておきたい訪問の心掛け、心遣い、挨拶、お茶やお菓子を上手に頂く。迎える側の心掛け、お茶の淹れ方の手順、お帰りはお迎えの時に上に心配りを、履物は左右少し空けて出しましょう。等々

第7・8回“森川静子会員による茶道”

薄茶や濃茶のお点前拝見やお茶を頂くのは初体験の皆さん。緊張され、先生の指扱い、振る舞いを見つめ、懐紙の取り扱い、お菓子お茶の頂き方、茶室内での会話、設え等、素晴らしい経験をなさったと思います。その後興味を抱かれた方の中には、多摩茶道連盟の月釜へ出向かれたようです。小西加葉子会員にもお手伝いやアドバイスを頂きました。

第9回“吉岡喜久恵会員による貝合わせ”

興味津々で参加されたメンバー、小2のお嬢さんと来られたお母さん等、初めて見る貝の美しさに時も忘れアツという間の2時間。ピタリと合う貝の説明、繊細な花鳥の絵文様に皆さん大喜び。雅で華やかな平安の遊びに「良い時間を過ごさせて頂いた」との感想を頂きました。

毎回参加者は変わりましたが、笑いの弾ける楽しいサロンで、通算130名もの参加者が来て下さり盛況でした。お陰で私も良い経験をさせて頂き、ありがとうございました。

出前授業「貝合わせ」**吉岡喜久恵会員**

多摩中学校で昨年度に続いて「伝統文化継承～国際社会へ旅立つために～」の講座に参加させていただきました。

11コースの体験学習講座の中から一つを選択するもので、私の貝合わせには男子5名、女子5名の参加があり、

11/29(金)6時限目 体育館に於いて開講式・各講師の紹介が有りスタート。それぞれの会場に移り、まず貝合わせの歴史的な説明を行いました。初めて耳にすることも多かったのか、戸惑っていましたが真剣に耳を傾けてくれました。この日の終わりには2組の貝を渡し、貝の中に色を塗っておくことと図案を考えてくることを宿題としました。

そして二回目は12/6(金)5・6時限通して行いました。宿題の貝は各々綺麗に塗られており、2組を描き上げるには少し時間的に大変そうでしたが、思い思いの図案で個性豊かな貝絵が出来上がりました。引き続き貝合わせ遊びに



貝絵を制作中の生徒たち

入りました。最初は少し緊張気味でしたが、目が慣れてくると見つけるのが早くなり、特に2人の女生徒があつという間に7～8組取り合わせ、向かい側の生徒

が拳を振り上げ悔しがったりして、遊びに興じていました。

この体験を通して、日本人の感性の素晴らしさの一面を感じていただけたら幸いです。

25年度多摩市民茶会開催**菊池宣子会員**

「市民茶会」とは、多摩市茶道連盟主催で年一回、関戸公民館の茶室・和室・会議室を夫々利用し、濃茶席・薄茶席・煎茶席(年により変更有り)を設け、市民の皆様に一時を楽しんで頂く茶会のことです。

各席は出来るだけ違った趣を感じていただきたく、流儀が重ならないようにしています為、発足以来お客様に喜ばれております。また、お茶お菓子に限らずお道具も席主が吟味に吟味を重ねて用意しています。

今年12月8日の市民茶会は2百余名の御来客で賑わい、楽しんでおられる笑顔に接し、準備の甲斐があったと当方も嬉しく思いました。阿部市長さんもご来席下さり、当クラブの増山・滝川・神谷・倉賀野・西村・瀬尾・吉岡・藤寄各プロピアンも来られ、心強い限りでした。

市民茶会と謳っていますので、気軽にご参加願いたく、「頂き方がどうも…」と言われる方には丁寧な説明致します。

“脚が…膝が…”とおっしゃられる方には、座敷用の椅子を用意していますのでご安心下さい。今後とも盛大に開催していきたいと考えておりますので、ご期待下さい。



多摩茶道連盟の方々

◆◆◆ 新会員紹介 ◆◆◆

澤雄二会員



12 月度入会。65 歳。人物評「温かな人柄」。ご母堂は画家。慶応義塾大政治学科を卒業後フジテレビ入社。政治記者からプロデューサーへ。「スーパータイム」や「報道 2001」など人気番組を立ち上げ、北米総支局長、国際局次長等を歴任。

平成 16 年参議院議員、平成 22 年勇退、実績は無数。多摩市では日医大病院やサンリオピューロランドの他市転出阻止などに貢献。

「議員引退後こそ真価を賭けた本当の戦い」と捉え「人生の総仕上げに地域発展に貢献したい」と願っている。

(滝川益男会員記)

◆◆◆ ハッピーバースディ ◆◆◆

11 月に誕生日を迎えられた皆さんです。尚 12 月の該当者は居られません。

左から
村上伸茲
吉岡喜久恵
倉賀野武士
各会員



◆◆◆東京多摩プロバスソング◆◆◆

作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

旧年は各国で自然災害が起り、大気不安定で人為の及ばぬ出来事が多かった。その中で我が国としては、富士山の世界遺産登録や和食文化が世界に見直されるなど、明るいニュースもある年だった。

当クラブとしては、会友制度が新設され、今後は休会・退会会員のご様子、行事参加の呼びかけなど、クラブの絆が輪がより強くなることが期待できる。

今一つは、多摩カルタの製作だが河瀬調の由。大船に乗った気分で楽しみに待とう。委員各位の並々ならぬ熱意と奉仕に敬意を表したい。さて、今年は「きのえうま」午年だ。我々がクラブには年男岡野一馬会員が饗鑠(かくしゃく)として多方面に活躍しておられる。皆でエールを贈り、大地を掛ける騎馬少年よろしく、益々の発展を願って止まない。

所で右上の掛け物は「人間(じんかん)万事塞翁が馬、推枕軒中、雨を聴いて眠る」という詩の冒頭で、元王朝の熙晦機禅僧の曰く、禍福は変転し、予測できぬと思想書に解いている。料紙には、詩の初めと馬蹄を二個だけ画き、粹で雅味豊かに仕上げられている。これは武者小路千家 13 代徳翁の直筆であるが、十二年毎に話題を呈している一品で、余情溢れる風情が尽きない。

「物皆新しきことはめでたき事なれども、人の旧きも又めでたき事」と何かで読んだ。馬は馬連れ、今年もウマく手綱を捌き、皆で勝馬にまたがり、新しき人も旧き人も、己が道を進んで参りましょう。

右下の写真の左手前の黒い木馬は三春駒である。余談だが、坂上田村麻呂が三春城の鬼征伐に向う時、京都清水寺の上人が馬百疋を刻み、出発の際鎧櫃に収め持たせた。官兵は遠路で疲れ苦戦している最中、生きた馬百頭が現れ、無事鬼を討伐できたが、凱旋の折、先程の馬の姿は無く、三春に一頭の馬が倒れていたという故事が有る。現在、三春大神宮に神馬として“養老号”の木像が奉納され、名馬の名に因み老後のお守りとして三春駒は賞愛されている。

改めて、“新年おめでとうございます。今年も宜しく。”

(広報委員
阪東熙子)

